

ほっかいどう きたとうほく じょうもん いせきぐん
北海道・北東北の縄文遺跡群

せかい いぜん
世界遺産になった!

是川石器 時代遺跡

これかわせつきじだいいせき

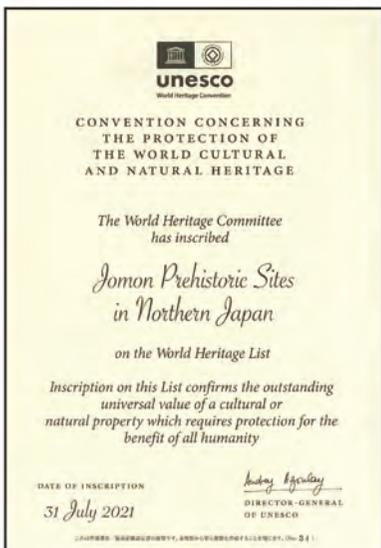
01

ほっ かい どう きた どう ほく じょうもん い せき ぐん
「北海道・北東北の縄文遺跡群」

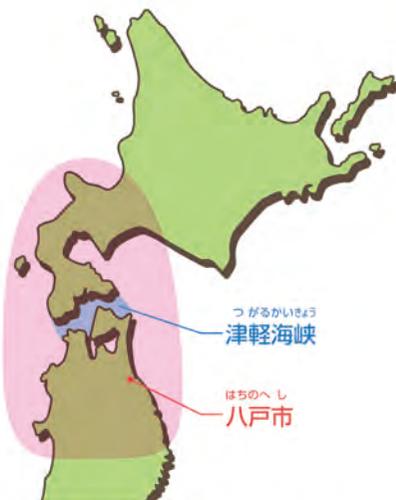
みなさんは世界遺産のことを知っていますか？

世界遺産は、地球の成り立ちと私たち人類の営みによって生まれた、かけがえのない宝物のことです。

2021年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」(以下、縄文遺跡群)が世界遺産になることが決まりました。



ユネスコから届いた認定証(レプリカ)



北海道・北東北の縄文遺跡群のはん囲



「縄文時代」は、日本だけが使っている時代の呼び方。だから英語でも「Jomon」なんだからん！

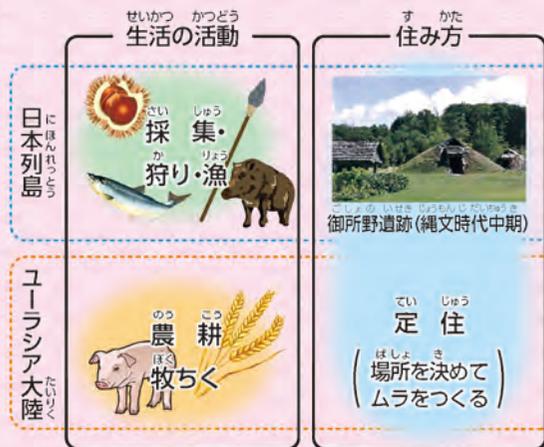
これは川縄文館のキャラクター「いのるん」

北海道南西部から東北北部は、日本列島のなかでも縄文遺跡が多い地域です。この地域の縄文人は、津軽海峡をわたって交流を深めていました。

この地域の縄文人の暮らしや文化がよくわかる17の遺跡が世界遺産になりました。

せ かい い さん
世界遺産になった
 り ゆう
2つの理由!?

ユーラシア大陸では定住とともに、ムギやイネの栽培が始まりましたが、日本列島の縄文時代では採集・狩り・漁を行い、定住する暮らしが続いたところに大きなちがいがあります。



生活と住み方のちがい

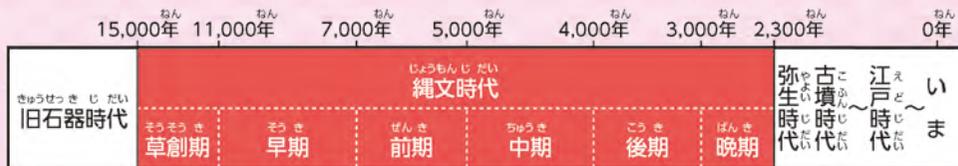
POINT 1

採集・狩り・漁をしながら定住し、
 いろいろなマツリを行う暮らしが1万年以上続いたこと。

POINT 2

気候の変化にも対応して、上手に自然のめぐみを使い、
 いろいろな場所にムラをつくったこと。

縄文時代は1万年以上続いて、日本の歴史のなかでも、とっても長いんだらん！
 すごいるん!!



日本の歴史のものさし

02 縄文遺跡群の四つの特ちょう！

01 自然を上手に利用した生活をしてきた

縄文人は、食べものに困らないように季節ごとにとれる物をよく知り、自然を上手に利用していました。そのおかげで1万年以上にわたって、木の実の採集や漁、狩りをして定住する暮らしを続けることができました。



02 ムラのなかでマツリをしていたと考えられている



縄文人は、祖先や自然を大切にする、マツリを行っていたと考えられています。縄文遺跡からは、マツリの場になったと考えられる貝塚(動物骨や貝などの捨て場)やストーンサークル(環状列石)が見つかるほか、土偶などのマツリに使われるいろいろな道具も多く見つかっています。

貝塚でみつかった動物に対するマツリの場 (北海道北黄金貝塚 縄文時代前期)

03 暮らす場所に合わせて生活を工夫していた



縄文人は、食べものを集めやすい場所(山や川、海の近くなど)にムラをつくりました。また、それぞれの場所に合わせて、技術や道具を生み出していました。

貝の採集や漁の想像図(左) (長七谷地貝塚 縄文時代早期)
クリの実の採集の想像図(右) (一王寺遺跡 縄文時代中期)

04 縄文時代1万年のムラの移り変わりがわかった

縄文人は暖かくなったり寒くなったりする気候の変化や火山ふん火といった自然との関わりにあわせて、ムラの形や大きさを工夫して暮らしていました。



青森県三内丸山遺跡 縄文時代中期



秋田県大湯環状列石 縄文時代後期

人が集まって大きなムラがつけられた約5,000年前の縄文社会(左)と、小さなムラに分かれて暮らし、共同で環状列石をつくる約4,000年前の縄文社会(右)

縄文遺跡群の17の遺跡

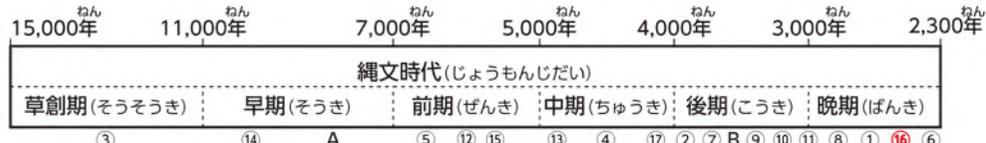


もっと知りたい人は
コチラもみてらん!

縄文キッズ



遺跡の年代



① 高砂貝塚



② 入江貝塚



③ 大平山元遺跡



④ 三内丸山遺跡



⑤ 田小屋野貝塚



⑥ 亀ヶ岡石器時代遺跡



⑦ 小牧野遺跡



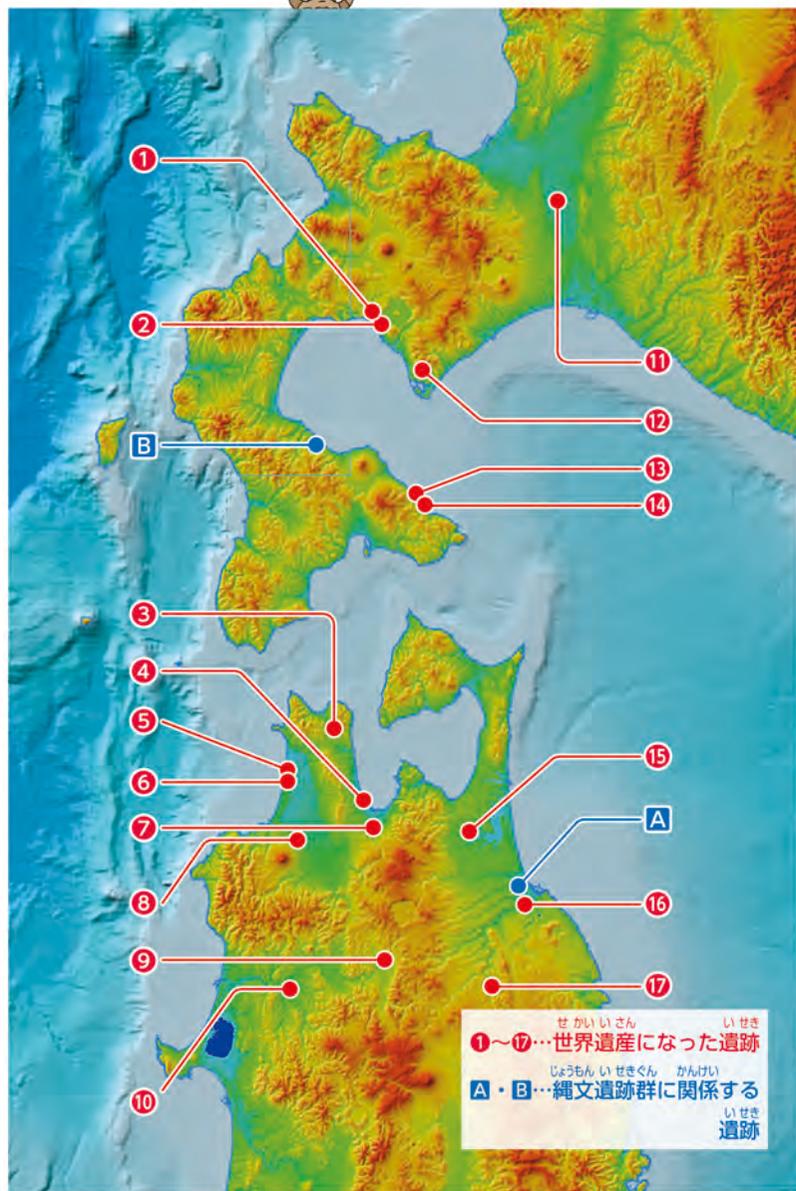
⑧ 大森勝山遺跡



⑨ 大湯環状列石



⑩ 伊勢堂岱遺跡



①～⑰…世界遺産になった遺跡
A・B…縄文遺跡群に関する遺跡

※ストーンサークルや周提臺(大きな土手のあるお墓)のほかは、復元された建物であり、遺跡は大切に地下で保存されています。



⑪ キウス周提臺



⑫ 北黄金貝塚



⑬ 大船遺跡



⑭ 垣ノ島遺跡



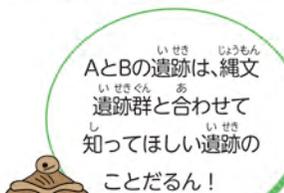
⑮ ニツ森貝塚



⑱ 是川石器時代遺跡



⑰ 御所野遺跡



⑲ 鷺ノ木遺跡



⑳ 長七谷地貝塚 (約8,000年前の数少ない貝塚)



㉑ 鷺ノ木遺跡 (北海道の数少ないストーンサークル)

AとBの遺跡は、縄文遺跡群と合わせて知ってほしい遺跡のことだるん!



知ってる？縄文時代!!

今から約15,000年前から2,300年前まで続いた縄文時代は、どのようなものだったのでしょうか？

縄文時代のすごいところをみてみましょう。

ここがすごいぞ！縄文その1 土器を発明した！

土器を使うようになって、動物や植物をにやわらかくしたり、毒をぬいたりできるようになり、食べられるものがたくさん増えました。土器は持ち運びが難しく、移動する生活に向かないため、土器の発明は場所を決めて暮らすムラのはじまりを示しています。

土器の使用が縄文時代のはじまりとも考えられています。



▲縄文時代のはじまりの約15,000年前につくられた土器のかけら
(青森県大平山元遺跡 縄文時代草創期)

ここがすごいぞ！縄文その2 縄文人のネットワークは広い！



▲三内丸山遺跡で見つかった北海道の黒曜石でつくられた石槍(左) 北陸のヒスイでつくられた大珠(右)
(青森県三内丸山遺跡 縄文時代中期)

縄文人は、黒曜石やヒスイなどの身のまわりでは手に入らない貴重品を遠い地域との交流によって手に入れていました。

縄文時代には日本列島全体にムラからムラ、遠いところには丸木ぶねでわたる、海で結ばれた広いネットワークがあったのです。

ここがすごいぞ！縄文その3 土偶が1万年以上つくられた！

土偶は、縄文時代を通して1万年以上つくられ続けたねん土の人形です。

その多くは出産する女性のような姿につくられていることから、大切な命に対する縄文人のいのりがこめられていると考えられます。



▲土偶のいろいろ
(上)秋田県伊勢堂岱遺跡 縄文時代後期
(左)青森県中居遺跡 縄文時代晩期

ここがすごいぞ！縄文その4 広さは日本列島全体！



縄文人が生み出した道具や暮らしは、今の北海道から沖縄まで広がっていました。南北に長い日本列島は、四季や気候にちがいがあり、各地で暮らす縄文人のムラのつくり方や道具に個性が表れます。

▲縄文時代晩期のころの日本列島
※色のちがいは、各地でみつける土器などに個性のちがいがあることを示します。

ここがすごいぞ！縄文その5 戦がない助けあいの社会だった！

縄文人の骨には争って傷ついたあとがほとんどなく、戦はなかったと考えられます。また、子どものころに重い病気にかかりながら大人まで成長した骨が出土していることから、助けあって暮らしていたと考えられます。



▲子どものころに体がやせて力がなくなる病気にかかった縄文人の墓
(北海道入江貝塚 縄文時代後期)

03

これ かわじょうもんじん
是川縄文人のつくったものは
びじゅつひん
美術品のよう!



●土偶

マツリなどに使われた
と考えられます。目が大
きくつくられ、頭や体に
きれいなかざりや文様
がつけられています。



●耳かざり

ねん土でつくられ、きれいな文様
がつけられています。

●土器

整った形やきれいなデザ
イン、ピカピカの表面のつ
やだしが特ちょうです。



はちのへ きたとうほく
八戸は北東北のなかで早くか
じょうもんじん
ら縄文人がムラをつくり、道具
を発達させた地域です。
これはかわ
是川で見られる美しい土器や
土偶などは、北海道から沖縄ま
で見つかっています。

04

これ かわじょうもんじん いま
是川縄文人は今につながる
うるしの文化をもっていた!

これかわじょうもんじん き そだ じゆえき
是川縄文人は、うるしの木を育てて樹液をとり、
いろいろな道具を赤色や黒色にぬっていました。
うるしは、あみかごや土器に重ねてぬってきれ
いに仕上げしており、縄文人は今のうるし工芸と変
わらない方法を知っていたことがわかります。

●かざり太刀

刀のような形で、
マツリなどで使わ
れたつえと考えら
れます。是川石器
時代遺跡だけの貴
重品です。



●土器

うるしがぬられたも
のは少ないので、マツ
リなどの特別な場面
で使われていたと考
えられます。



●うるしこしの布

うるしの木からとった
樹液のごみとりに使わ
れました。

●くし

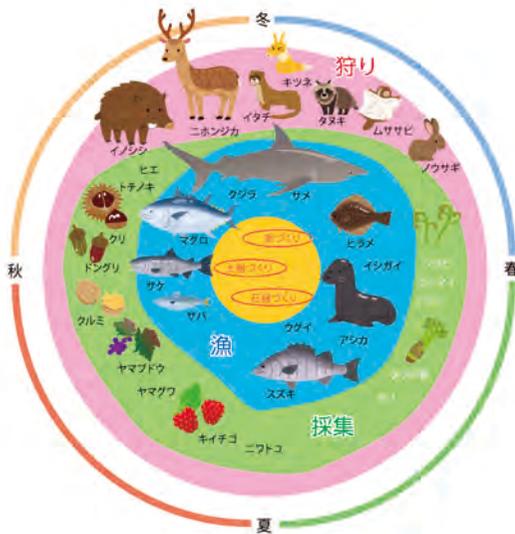
マツリなどの特別な場
面で、かみかざりとして
使われていたと考えら
れます。



なかい く 中居ムラの暮らし

なかい じょうもんじん おがわ
中居ムラの縄文人は、小川にかこ
まれた場所にムラをつくり、山・川・
海のめぐみを活かして約700年間
生活していました。

ムラのまわりでは、木の実がなる
クリやクルミ、トチノキの林のほか、
ヤマブドウやニワトコなどの
いろいろな植物を育て、食料や木材に
していました。また、山あいではイノ
シシやシカ、川ではウグイやサケを
とり、海に出かけてマグロやスズキ
のほか、クジラやサメも手に入れて
いました。



なかい じょうもんじん てい い どうぶつ しょくぶつ
▲中居ムラの縄文人が手に入れた動物や植物

(白色の字は、遺跡から出土していないもので、
当時使われていたと考えられているもの。)



なかい く そうそうず
▲中居ムラの暮らしの想像図

じょうもんじん きせつ
縄文人は、季節ごとに
いろいろな植物や動物を手に入
れて、長くこの生活を
つづけていたん！



これかわせっきじだい いせき いずみやまきょうだい 是川石器時代遺跡と泉山兄弟



はくつ み とき
▲発掘で見つかった土器などのようす

これかわせっきじだい いせき いずみやまいわじろう あやじ
是川石器時代遺跡は泉山岩次郎、斐次
郎兄弟によって守られました。

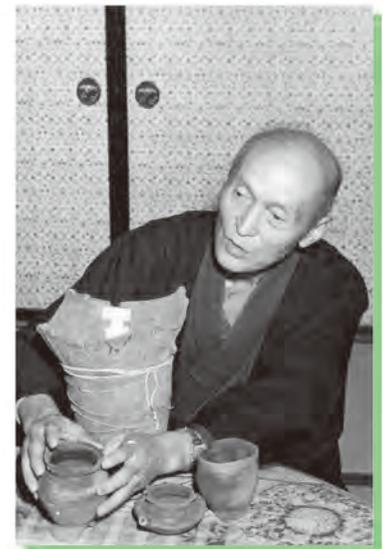
ふたり いせき み はくつ せかい し
二人は遺跡を見つけ、発掘し、世界に知
られるきっかけをつくりました。なによ
り大事なことは、出土品の保存にとても
努力されたことです。

ふたり やく てん しゅつどひん
二人のおかげで約5,000点の出土品が
これかわ のこ
是川に残ったのです。

いわじろう あやじろう
岩次郎さんと斐次郎さんのおかげで、
はちのへ ちいさ ちから
八戸にかけがえのない地域の宝が
のこ
残されたんだるん！



あに いわじろう
兄の岩次郎さん



あに あやじろう
弟の斐次郎さん

是川石器時代遺跡のこれから

これかわせっきじだいいせきはちのへたからせかいにたから
 是川石器時代遺跡が八戸の宝から世界の宝になりました。

これから遺跡のすばらしさを世界中に伝え、遺跡をずっと守っていくことがとても大切です。遺跡では、今、当時の縄文人の暮らしや風景を再現する取り組みが進められています。

自然を上手に利用し、長い間、助け合う暮らしが続いた縄文遺跡群の特ちょうは、世界でもほかにありません。みんなで世界遺産になった是川石器時代遺跡を守り、未来に伝えていきましょう。



▲是川石器時代遺跡(中居遺跡)の再現イメージ

(当時の竪穴建物やマツリの場のほか、流れていた小川や水辺の作業場も再現する計画です。)

- 写真提供: JOMON ARCHIVES、青森県・函館市・伊達市・千歳市・洞爺湖町・森町・青森市・弘前市・つがる市・外ヶ浜町・七戸町・一戸町・鹿角市・北秋田市の教育委員会、三内丸山遺跡センター ※P6-7の地図は[地理院タイル色別標高図]を加工して掲載
- 協力者: 鈴木規夫氏(八戸市小学校社会科教育研究会 会長)
- 想像図作画: 安芸 早穂子氏

しょうがっこう
小学校

ねん 組
年 組

なまえ

はちのへはっけん
八戸発見ブック

せかいいざん 世界遺産になった！是川石器時代遺跡

発行日: 令和4年3月8日

編集・発行: 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
 デザイン・印刷: 新光印刷株式会社

▼もっと知りたい人はコチラ！



是川縄文館



縄文キッズ



縄文遺跡群